

来週の市場とレート予想

| | 7/4(月) | 7/5(火) | 7/6(水) | 7/7(木) | 7/8(金) |
|--------|--|--|---|---|---|
| 無担保O/N | | | △0.086% | ～ | 0.000% |
| 銀行券 | + 700 | + 1,000 | ト ン | ト ン | ト ン |
| 財政他 | △ 34,000 | + 5,000 | + 2,000 | △ 24,000 | ト ン |
| 資金需給 | 不 33,300 | 余 6,000 | 余 2,000 | 不 24,000 | ト ン |
| 主要要因 | 法人税・消費税・保険揚げ 国庫短期証券発行・償還 (3M) | | 交付税特会借入・償還 | 国債発行(10年) | |
| オペ期日 | 共通担保(全店) △ 4,200 CP等買入 △ 100 | 共通担保(全店) △ 600 | | | 共通担保(全店) △ 600 |
| オペスタート | 共通担保(全店) + 2,800 | 共通担保(全店) + 100 短国買入 + 20,000 国債買入 + 12,500 | | | |
| (日本) | マネターベース(6月) 短観(6月業種別計数、「企 業の物価見通し」の概要) 日本銀行が保有する国債の 銘柄別残高 日本銀行による国庫短期 証券の銘柄別買入額 日銀営業毎旬報告 (6月30日現在) | 需給ギャップと潜在成長率 日銀当座預金残高増減要因 (7月見込み) | 基調的なインフレ率を捕捉する ための指標 | 日銀支店長会議 黒田日銀総裁挨拶 地域経済報告 対外対内証券売買(前週分) 景気動向指数(5月) 消費活動指数 コール市場残高(6月) | 国際収支(5月、1-3月) 毎月勤労統計(5月) 景気ウォッチャー調査(6月) |
| (海外) | 米 独立記念日のため休場 | 米 ニューヨーク連銀総裁講演 | 米 貿易収支(5月) 米 ISM非製造業景況指数 (6月) 米 FOMC議事録 (6月14-15日分) | 米 ADP雇用統計 米 新規失業保険申請件数 (2日終了週) 欧 ECB議事要旨 | 米 雇用統計 |

[インターバンク市場]

| 無担保ターム物 | 予想レンジ |
|---------|---------------|
| SPOT 1M | △0.06 ~ 0.000 |
| SPOT 2M | △0.06 ~ 0.000 |
| SPOT 3M | △0.06 ~ 0.000 |
| SPOT 6M | △0.06 ~ 0.000 |

<インターバンク>

今週の日銀当座預金残高は週初301兆円台から始まり、その後は国債・国庫短期証券買入オペ等の要因により増加し、週末は304兆2,800億円となった。無担保コールON物は週を通して△0.08～△0.03%で取引された。四半期末越えとなる6月30日は調達需要が弱まり、△0.08～△0.07%の合いが多く見られた。加重平均金利は6月30日に△0.064%まで低下したが、その他の日は△0.062～△0.058%で推移した。ターム物は6月末越えでは目立った動きは見られず、7月スタートの1～2W物が△0.04～△0.03%で取引された。28日に実施された米ドル資金供給オペ(1W物、6/30-7/8、0.87%)は、四半期末越えであることに加えて、先週末の英国国民投票の結果を受けドル資金の調達需要が強まった結果、応札額が14億7,500万米ドルまで増加し、2014年末実施の同オペ(応札額15億2,800万米ドル)以来の10億米ドル越えとなった。7月1日に公表された日銀短観では、大企業製造業の業況判断DIは前回(3月調査)と横ばいの+3であった。一方、非製造業の同DIは前回から△3ポイントの+19であった。来週の予定は、国内では日銀支店長会議(7日)、海外では6月開催分FOMC議事要旨(6日)、米雇用統計(8日)がある。

[オープン市場]

| | |
|------------|-----------------|
| CP3M(a-1+) | 0.000 ~ 0.005 |
| TDB 3M | △0.350 ~ △0.250 |
| 現先(on/1w) | △0.100 ~ 0.000 |

<CP>

今週の入札発行額は約17,400億円で、期落ち額約25,600億円(金融機関・ABCP除く)を下回った。四半期末の有利子負債削減により、継続発行を見送る動きが見られた。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。現先レートの中心は、-0.100%～0.000%程度で推移した。

<TDB>

23日に国庫短期証券3M第616回債の入札が行われたが、最高落札レートはそれぞれ△0.2224%(前回債△0.2517%)、平均落札レートは△0.2441%(同△0.2636%)と前回債と比べて利回りは上昇した。セカンダリーは3Mで△0.265%近辺の地合いとなっている。6M、1Yは目立った合いは見られなかった。来週30日に3Mの入札が

<レポ>

足許GCは週初△0.08%～△0.09%での合いから始まった。月末取引である30日受渡では、△0.10%台前半半ばでの合いも散発的に見られたが、最終的には△0.10%近辺で多く取引された。7月入り後、1日受渡では△0.08%～△0.09%と週初同様の水準に戻った。週末には短国・国債買入れオペが計3兆2450億円オファーされ、△0.095%～△0.10%での合いとなり越週した。SC取引では、週末に10年債、5年債カレント近辺のbidが増加、10年343回債は△0.20%～△0.40%、5年128回債は△0.50%台の合いも多く見られた。その他には2年265回債、5年125・126・127回債、10年330・336・341・342回債、20年155・156回債、30年49・50回債などに引き合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。